

施設・設備のご案内

【外観】

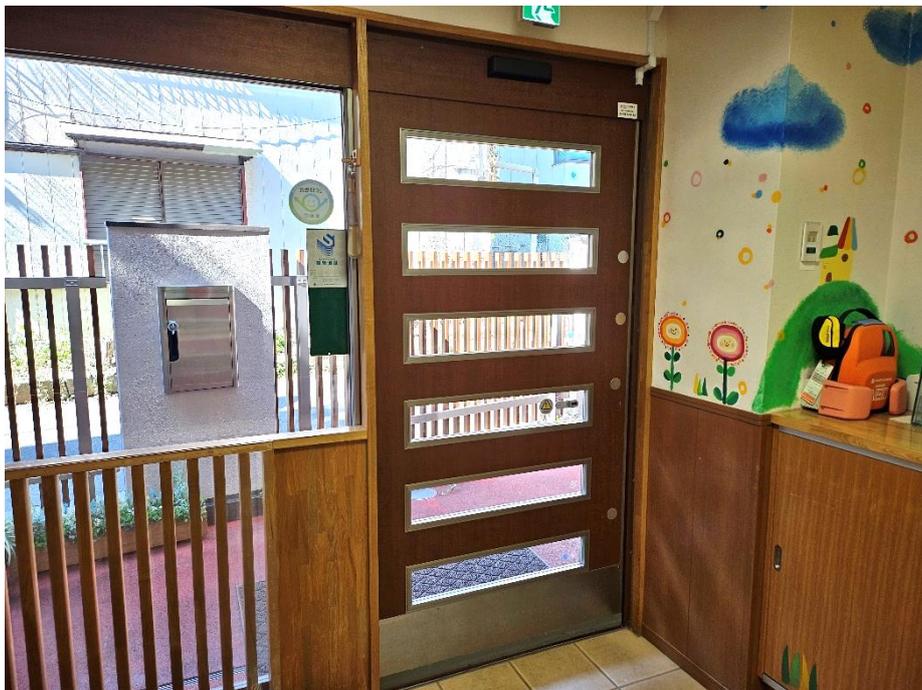


- ・北東部から見た園舎です。
園舎東側の道路幅が少し広いので、こちら側が正面と思われる方が多いようです。
- ・勝手口脇の螺旋形のすべり台は、
保育所設置基準に従って設置した
避難用の傾斜路です。
実際の運用する上では屋外階段を
使用した方が安全なので、現在は
モニュメントになっています。
- ・下の写真は「生ゴミ処理機」です。
生ゴミの量を減らすことで、環境
衛生に役立ちます。





- ・当園の正面玄関です。
狭い路地側に面しているのですが、車通りがないため登降園や散歩の出入りはこちら側の方が安全です。玄関はオートロックとなっています。ご用の際はインターホンでお知らせください。



- ・屋内から見た正面玄関です。安全管理、衛生管理のため、扉は自動ドアとなっています。オレンジ色の器具はAED（自動体外式除細動器）です。緊急の場合には近隣住民の方もすぐ使用できるように玄関に設置しています。

- ・右の写真は下駄箱です。
園舎内は上履きを使用せず、子どもたちは裸足で生活しています。



- ・下の写真は、2次元コードリーダーです。
登園時とお迎え時に、スマホアプリを使い2次元コードを通してもらいます。
保育には、人の手や目でなければならない仕事がたくさんあります。機械類を上手に使って、人の時間と労力を生み出すことが効率化であると考えています。



- ・右は、玄関を始め園舎内のいたるところにイラストを描いてくれた浦中こういち氏です。
はるばる三重から遠征してきてもらい、1週間かけて仕上げました。いろいろなところに描いていますので、ぜひ探してみてください。



- ・玄関に設置している手洗い場です。
保育園は乳幼児が集団で生活する場所ですので、衛生管理にはかなりの注意が必要です。

【案内所】



- ・「事務室」兼「応接室」兼「保健室」です。園長、事務員、看護師はここに常駐しています。保健室として使用する際は、パーテーションでスペースを区切ります。



- ・案内所内の機器類です。「全館放送設備」「火災通報装置」「火災受信機」「緊急地震速報受信機」「110番非常通報装置」など、事故や事件に対応するための様々な装置が設置されています。もちろん最終的には「人間の判断」が重要になるので、毎月の防災訓練は必ず本番を想定した「予告なし」「細かい指示なし」の訓練を行っています。



- ・全体用掲示板です。左手には当日の給食とおやつ（1歳児クラス以上）の展示ケースがあり、下部は貸し出し用の絵本をレイアウトしています。



- ・車椅子など障碍をお持ちの方も使用ができる「誰でもトイレ」です。1階、2階、両フロアに設置しています。男女兼用で、大人の利用者用トイレとしても使用しています。

【調理室】



- ・調理室です。火災対策、衛生管理に優れたオール電化となっています。園舎東側の勝手口から食品を搬入することができるようにしています。また、調理室の北側には茜保育室とつながる窓を設置して、離乳食に関する保育室とのやり取りを特に綿密にできるようにしています。
- ・当園の給食、おやつ、補食は、パンや乳製品などを除いて「ほぼ手作り」です。子どもたちの成長発達に合わせた調理（固さや大きさなど）、原材料の吟味（添加物や保存料など）といった手作りならではの配慮をすることができます。
- ・左下の写真は給食とおやつ（1歳児クラス以上）の展示です。献立表も掲示しています。
- ・右下の写真は2階の給食用エレベーターです。1階調理室からあがってきた給食や食器類は、ここから2階の各保育室へ配膳されます。



【茜保育室】



- ・0歳児クラスの保育室（定員10名）です。板橋区の基準では、ほふく室、乳児室を合わせて5㎡/児童1人となっていますが、当園では部屋として区切らず、パーテーションを利用して時季や児童の状況に応じてレイアウトを変えることにより、スペースを有効活用できるようにしています。
- ・保育室東側の非常口です。屋外階段は屋上まで続いています。0歳児クラスは月齢差による生活リズムの違いが顕著で、ちょっとした時間を使って屋外に出られるように散歩車が置いてあります。また、夏場はここで水遊びをしたりしています。





- ・上の写真の中央左側が「調乳スペース」です。窓の向こう側が調理室で、離乳食は調理室から直接提供されます。部屋として区切らず、開口部を広くすることで調乳など作業中でも保育室内との会話や児童の気配をシャットアウトしないようにしています。
- ・右の写真で干してあるものは、シリコン製の食事用スタイです。洗浄も容易で児童によって区別しなくてもよいので、当園の備品として用意しています



- ・上の写真の中央右側「沐浴スペース」です。乳児の沐浴やオムツ交換などを行う場所で、調乳室同様、部屋として区切っていません。（※衛生管理上の問題はありません。）
- ・保育園生活で使用するオムツは、基本的に「紙オムツ」（紙パンツ）を使用しています。保育中に使用する紙オムツは当園で用意し、ゴミ処理も行います。

【空保育室】



- ・1歳児クラスの保育室（定員12名）です。保育園は子どもたちの生活の場所と考えていて、保育室の面積は極力広く確保できるようにしています。この保育室の場合、定員が16名でも基準上の問題はありません。
- ・西側の窓について、排泄の介助や着替えなどの際にはスモークがかかるようにしていますが、日常的には外の道路を通行する人からも保育室内がよく見えるようになっています。不審者対策とは相反しますが、「人と人とのつながり」を大切にすることで、地域から見守ってもらえる安心感の中で過ごしていきたいと考えています。
- ・茜、空兼用の児童用トイレです。両保育室から入れます。保育園は他児からの影響もあり、トイレトレーニングでは家庭で進めるよりもペースが早くなる傾向があります。それでも個人差が大きいので、「何歳何か月になったから」と固定的な考え方はしないように注意しています。



【桃保育室】



- ・ 2歳児クラスの保育室（定員12名）です。定員15名でも面積基準上の問題はありません。保育室では唯一園舎南側にあるのですが、隣接住居への配慮から南側に窓は設けていません。そのため、採光のために東側に開口部の大きな窓と天窗を設けています。
- ・ どの保育室でもそうなのですが、子どもたちが長時間落ち着いて過ごす空間として、「無暗に飾りたてしない」「床に無用なものを置かない」「広く見通しが効くようにする」などの配慮をしています。
- ・ 満3歳を迎えるこのクラスは、着脱や排泄などの生活習慣を少しずつ身につけていくことが主な活動のひとつとなります。自分でやりたがる子どもたちの気持ちを尊重する上で、空間や時間の確保が大切です。そのためロッカーは1人1列、トイレもこの保育室専用として、無用なトラブルを生まないように設備面からも配慮しています。



【月組・星組保育室】

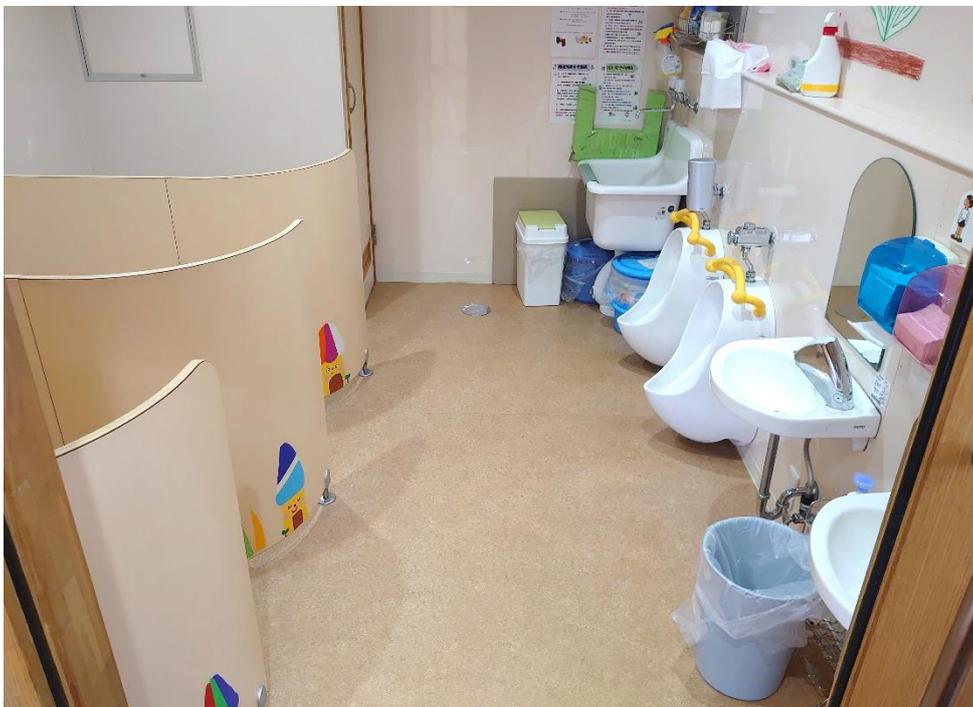


- ・当園では、堇（3歳児クラス定員12名）、杏（4歳児クラス定員12名）、桜（5歳児クラス定員12名）について、各クラスを6名ずつに分けて、3～5歳児18名の2クラスとしての「異年齢保育」を基本としています。名称は月組／星組となっています。異年齢クラスにより「動線を意識した生活空間」「保育士の複数担任制」を確保することができています。
- ・上の写真は月組保育室です。定員は18名ですが、基準上は定員22名でも問題ありません。3～5歳児の異年齢クラスですので、椅子やテーブルは高さを変えることができるものを使用しています。
- ・桃保育室とは異なり、「順番を守る」「譲り合う」といったルールやマナーを身に着けるため、あえて2人1列のロッカーとしています。
- ・ロッカーの引き出しは全クラスで同じ大きさとなっています。一般的な物よりも少し大きめに作って、保育園で子どもが自分で衣類の整理がしやすくなっています。
- ・どの保育室でもそうですが、床暖房を設置しています。天井型の空調では暖房効果が低い上に空気が乾燥しやすいため、肌の乾燥やウィルスの繁殖を招きやすくなります。





- ・月組と星組の間仕切りを収納すると、大きなホールとして使用することができます。



- ・3～5歳児用のトイレです。一般的に保育園では扉の開閉に起因する事故や怪我は多いため、大便器には目隠し用パーテーションには扉を設けていません。また、保育士からの見通しや、児童の声の通りを確保するため、パーテーションは大人の半身程度の高さにしています。
- ・当園では衛生管理の観点から、トイレ後の手洗いについてペーパータオルを使用しています。

- ・ 2階廊下に面した掲示板です。写真なども上手く用いながら、保育活動の様子をお知らせするようにしています。



- ・ 職員室は「保育準備室」兼「休憩室」です。男女それぞれの更衣室も併設しています。

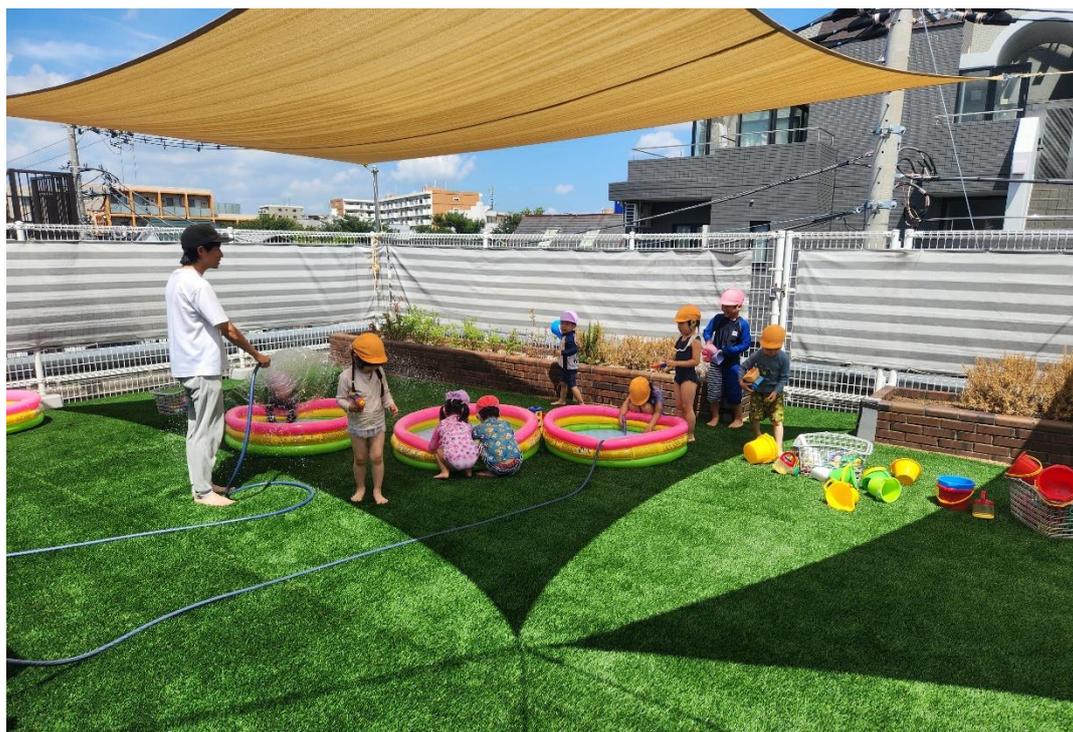
- ・ 用務室には洗濯機は2台あって、洗濯物の種類により使い分けています。



- ・屋上遊戯上です。敷地が狭いことから、地べたに園庭を作ることは設計段階で諦めました。1年を通じて裸足で遊んだりすることができるように、天然芝に近い人工芝を敷いています。



- ・夏場には、シェードを張って日陰を作り、ビニールプールをたくさん出して遊びます。屋上にはトイレもシャワーもあるので、中断することなく遊びこむことができます。



- ・砂場です。屋上にあるのはかなり珍しいそうです。深さが足りないので大きな子どもたちには物足りないのですが、小さい子どもたちの春／秋の保育活動では重宝されています。



- ・屋上にある畑です。3～5歳児と一緒に、土づくりから一緒にやっています。畑作業は、食べ物のありがたみを知ると同時に、労働や役割分担といった社会性を身につける手段として有効であり、また、土や泥を触った時の触感、花や実のにおいや鮮やかな色合い、調理して食べた時の味など、子どもたちの五感の発達に大きく影響すると思っています。

【 わかたけかなえ保育園 】

(鉄筋コンクリート造り2階建て / 平成23年2月竣工 / 平成23年4月開設)

敷地面積：372.70㎡ (112.74坪)

建築面積：260.82㎡ (78.89坪) / 建蔽率 69.9%

延床面積：512.65㎡ (155.07坪)

茜保育室 = 50.07㎡ 空保育室 = 47.42㎡ 桃保育室 = 30.39㎡

月組／星組保育室 = 88.30㎡ ※ロッカーや洗面台等を除いた有効面積

屋上遊技場 = 95.0㎡ ※畑や花壇を除いた有効面積 (ただし砂場は含む)